



写真1 / 夢のなかの南国みたいな風景で心身をリラックス (高知市)

2020.03 Monthly Report

新入社員にかけてあげたい言葉、新入社員を迎える上司・経営者にかけてあげたい言葉集

～風雲急な時期だからこそ心静かに迎えたい～

☆気持ちの持ちようでもつまらなくもなる

新年度の到来とともに新入社員を初めて迎える際、経営者のみなさんは、どのような言葉をかけているのだろうか。

伝統の社訓、社是、企業理念などに加え、経営者のみなさんが好きな言葉、自らが苦境に立ったときに支えとなった言葉、尊敬する人の言葉、歴史上の偉人やカリスマ的経営者の遺した言葉——。毎年この時期には、出典も意味合いもさまざまな、そうした言葉たちがそれぞれ無数に飛び交うことだろう。

そんななか、経営者が新入社員にかけたい言葉のランキングなどでしばしば上位に登場するものの一つが、幕末の志士・高杉晋作の「あの言葉」である。

[おもしろきこともなき世を面白く 住みなしものは心な

りけり]

高杉晋作の顕彰碑にも彫り込まれたこの言葉、後半は高杉のものではないとの説もあるようだが、世間では主に前半の「おもしろきこともなき世を面白く」の部分だけが、ピックアップされることが多い。その場合、たとえば新入社員に向ける言葉として使われるのであれば「自分たちの手で、この世の中を面白くするような仕事をしようじゃないか」というような意味合いで使われることが多い。

しかし、後半部の「住みなしものは心なりけり」が加わるとどうなるか。この言葉は前半部の印象のような能動的なものではなくなる。つまり「つまらない世の中ではあっても、心のもちかた（考え方）一つで、面白くもつまらなくもなる」という意味合いに変化する。「つまらない世を面白くしよう」という能動的な意味合いでなく、「考え方一つで、この世も案外捨てたものじゃないですよ」という、「発想の転換」の勧めになるわけだ。

維新の英雄・高杉晋作の言葉としては、つい前半部のみを取り上げ、能動的な意味合いを重視したくなる人が多いのもわかる。しかし、上士の家柄の出身である高杉晋作は、自らが立ち上げた奇兵隊の主力をなしていた下級武士や百姓とは違い、新しい世を強く希求する心と同時に、伝統的な価値観も解するバランス感覚があったものと推察される。だからこそその後半部な



写真2 / かすむ遠山を遠望していると悩み事など忘れてしまう (盛岡市)

*本文、後略